

蒲池地区義務教育学校再編協議会だより

蒲池小学校・蒲池中学校は1つになり、義務教育学校として生まれ変わります。 第9号 (R7.12月発行)

令和7年1月20日に第13回蒲池地区義務教育学校再編協議会を開催。校歌の作成、歴史的資料の保存について協議しました。

蒲池地区義務教育学校の校歌を決定

蒲池地区義務教育学校の校歌は、現在の小学校・中学校の校歌をそれぞれ第一校歌、第二校歌としてそのまま引き継ぐこととしています。

今回の再編協議会では、引き継ぎに伴い、既存の歌詞にある学校名に関するフレーズの扱いについて協議し、下記のとおり決定しました。

決 定 事 項

蒲池義務教育学校校歌（現蒲池小学校校歌）

蒲池校：変更せずそのまま引き継ぐ

蒲池義務教育学校校歌（現蒲池中学校校歌）

中学蒲池：「われらが蒲池、われらの蒲池」に変更

「われらが蒲池、われらの蒲池」にした理由

- ・全体の歌詞に合っている。音が発音しやすい
- ・自分達の学校だという思いが出ている
- ・小さい子供でも覚えやすい

蒲池義務教育学校校歌（現蒲池小学校校歌）

作詞 武末 幸子 作曲 田中 純孝

- 昇る朝日に 照り映えて 新緑香る 筑後路に
高くそびえる 学舎は 常に輝き 我ら呼ぶ
- 清き流れの 水浴びて 心のあかを 流し去り
いつも明るく 伸び伸びと 共に学ぼう 我が友よ
- 厳もくだく 五月雨の 強き心に 思いよせ
心も強く 身も強く 今日も仲良く 我ら行く
- 苦難の道を のり越えて みんなで築く 礎は
代々に光りて 曇りなし 我らの母校 **蒲池校**

蒲池義務教育学校校歌（現蒲池中学校校歌）

作詞 大坪 都築 作曲 滝田 卵夫

- 有明海の不知火に 我が暁光は生まれたり
海に炎の影染むる 見よ天地の胸の中
天地につきぬ 永劫の神秘の吐息 極みなし
新たなるもの ここにあり 新たなるもの 我が母校
- 紅燃ゆる筑紫野に 我が喜びは生まれたり
奇しき力を蒔く所 そこに尽きざる春は笑み
文化の幸を育める 香ぞ高き花の窓
美しきもの ここにあり 美わしきもの 我が母校
- 仰げば高き 雲仙に 我が希望は生まれたり
扶桑の空に 雄々しくも 名あり 言あり 道ありて
重きを荷う 双の肩 匂う春雲 裳の上
大いなるもの ここにあり 大いなるもの 我が母校
蒲池 蒲池 大いなるもの 常新たに
新たなるもの常にうるわし
讃えんかな母校 **われらが蒲池**
歌わんかな母校 **われらの蒲池**

※協議会は、毎月第3木曜日19:00～（場所：蒲池農村環境改善センター）開催予定です。

(発行・お問い合わせ先)柳川市教育委員会学校再編推進課 TEL:0944-77-8887

〒832-8555 柳川市三橋町正行431番地、FAX74-5545、メールgakkosaihen@city.yanagawa.lg.jp

ぎ む きょう いく がつ こう
あたらしく義務教育学校が開校します！

保存版

令和4年度に決定した「柳川市立小中学校再編計画」に基づき、お住いの地区では新しく「**義務教育学校**」が開校します。まず今回は「**義務教育学校**」がどんな学校なのかについてお知らせします（今後、どのような教育を目指していくのかのお知らせも予定しています）。

日本の学校制度



義務教育学校とは…

義務教育学校とは、平成28年から制度化された新しい種類の学校で、小学校から中学校までの9年間の義務教育を一貫して行います。

1名の校長先生のリーダーシップのもと、9年間を見通した教育目標を掲げ、教職員が長期的展望による切れ目のない指導を行う特徴があります。



9年間での一貫した教育



一人の校長
一つの教職員組織

特徴

- ①子どもたちの状況の把握や共有がしやすく、継続的な指導が可能となる。
- ②相互乗り入れ授業や縦割りでの行事が行いやすい
- ③子どもの発達状況に合わせ、4-3-2制等柔軟な学年段階の区切りが可能
- ④学校組織内の教員数が増えることで、教員間での相談・協力がしやすい
- ⑤PTA組織も一つになることで、保護者の負担軽減につながる

Q & A

令和5年に開校した嘉麻市立稻築東義務教育学校で実際に現場で働く先生から、義務教育学校のお話を聞きました。

Q 小学校と中学校が1つになったことのメリットは何ですか。

A 教職員組織が一つになったので、週に1回、全体で終礼を行うことで、各教員の取り組みを共有するようにしています。また、7年生の担任が5～6年生のときの様子を当時の担任に直接聞けるなど、児童・生徒の情報共有が以前よりしやすくなりました。1人の校長先生のもと、教職員全員で9年間を通して子どもたちの成長を切れ目なく見守ることができるのは、教職員組織が一つになった義務教育学校最大のメリットだと思います。



Q 学年区分は4-3-2制をとられているそうですが、メリットを教えてください。

A 開校時から、4-3-2制の学年区分を採用しています。導入の決め手は、中1ギャップの解消、前期課程（1～6年生）での一部教科担任制の導入のしやすさです。実際に、一部教科担任制を取り入れていて、3～6年生の理科や体育など、後期課程（7～9年生）の先生等が担当しています。

6-3制に比べると、児童・生徒の交流や、教職員の交流が図られていると思います。

Q 入学式や卒業式、運動会などの行事はどのように開催していますか。

A 義務教育学校は9年制の学校になるので、中学1年生は7年生、中学3年生は9年生と呼ぶことになります。6年生の卒業式や7年生（中学1年生）の入学式は実施していません。代わりに、6年生の授業参観で保護者へのメッセージや合唱を企画したところ、好評でした。体育祭は5～9年生で行っています。また、合唱コンクールを7～9年生で行い、5、6年生は観客、1～4年生は配信で見る機会を設けました。上級生に対するあこがれを感じ取るいい機会になっていると思います。



4-3-2制とは？

義務教育の9年間を「小学校6年間」と「中学校3年間」とする「6-3制」が一般的ですが、「6-3」の大きな枠組みを残しつつ、「小学1～4年生の4年間」、「小学5、6、中学1年生の3年間」、「中学2、3年生の2年間」に区分する「4-3-2制」を導入する学校が増えてきています。

